

① スポーツを活用した地域活性化に向けた取組について

ジャパンラグビーディビジョン1に所属するホンダヒートが本拠地を本県に移転することから、県内のスポーツ熱の高まりが期待される。国体のレガシー継承や活用と併せて、このような機会を逃さず、スポーツを活用した地域活性化を更に進めるには、県内のプロスポーツチームと企業等とのマッチングを進め、新たな価値を生み出していく必要があると考えるが所見を伺う。

【答弁】 生活文化スポーツ部長

地域や県内企業との連携を更に進めるため、**来年度より（仮称）とちぎスポーツハブを設置し**、プロスポーツチームと、企業や団体等とのマッチングをより進めていく。

スポーツを活用した地域活性化においては、大会や合宿の誘致も有効と考える。真岡市においても硬式野球場が竣工されましたが、このような新たな情報も含め、**県内で大会や合宿をする時の魅力やインセンティブを戦略的に一元的に発信していく必要がある**と考えるが所見を伺う。

【答弁】 生活文化スポーツ部長

旅行会社を対象とした県内視察を実施し、本県のスポーツ施設や宿泊施設のPRを進める。また、合宿時には県内チームとの交流や、練習試合を行いたいというアンケート結果を踏まえて、**県内チームの情報を栃木スポーツコミッションのホームページに掲載し、合宿誘致に取り組んでいく。**

② 笑顔輝くこども・子育て支援プロジェクト加速化事業について

少子化の解消や、子育て環境の充実に向けては、家庭や学校、また社会全体で、**子育てへのポジティブな印象を醸成させていく必要がある**と考えるが今後の取組について伺う。

【答弁】 保健福祉部長

新年度は子育ての喜びをPRするキャンペーンを関係団体や企業等と連携して展開する他、子育ての喜びを共有できる親子イベントを開催する。

再質問

「子持ち様」というような子育てを揶揄する言葉が流行すること自体が正常な世の中でないと感じるが、子育ての苦勞が過剰に伝えられている部分もあるように感じている。ポジティブな印象を醸成すると同時に、**全ての若者がより早い段階で子育てを自分事としてイメージしていく必要もある**と感じるが今後の取組について伺う。

【答弁】 生活文化スポーツ部長

新年度からは、**市町や企業に対して、サポート人材として登録して頂いた助産師等を派遣**する他、プレコンセプションケアを広く推進していく。

要望

子育ての準備や楽しみを行政で伝えていかなくてもいけないという、今の社会には大変疑問は持つものの、現状取組んでいく必要がある以上、他県に誇れる県内独自の取組が進むよう要望する。

③ ものづくり産業躍進プロジェクトについて

令和3年度から「ものづくり産業躍進プロジェクト」を掲げ、安定したサプライチェーン確保に向けてのネットワーク形成や、人材の育成・確保等を進めているが、ものづくり県の更なる発展に向けては、**産業の集積や、新たな成長産業へのアプローチなど、時勢を捉えた戦略が必要**と考えるが所見を伺う。

【答弁】 産業労働観光部長

半導体や蓄電池産業等の新たな成長産業の企業誘致・定着の強化、また技術開発等を戦略的に進めていく。更には、新年度からは新たに各種施策の相談対応等を専門に行うコーディネーターの配置や、企業への専門家の派遣など**新分野参入へのチャレンジを支援**する。

要望

令和7年度のものづくり産業躍進プロジェクトの目標は「戦略・成長産業でイノベーションに挑戦し「世界のものづくり拠点とちぎ」を目指す」という大きな目標が掲げられているので、その目標に向けて時代のニーズに合った取組をスピード感を持って進めることを要望する。
併せて、**真岡、清原、芳賀、高根沢各工業団地が位置する408号バイパス沿線の優位性を更に生かして、県内経済を牽引するエリア形成を進める取組を推進**することを要望する。



ごあいさつ

盛夏の候 皆様におかれましては日頃より栃木県発展のためにご尽力賜り、心より御礼申し上げます。

早いもので、今年も間もなく8月に入ります。少し時期はズれますが、2月通常会議において本会議、また予算特別委員会において登壇させていただきましたので、本誌にてご報告させていただきます。

暑い日が続きますが、お体にくれぐれもご自愛頂きますようお願い致します。

栃木県議会議員 石坂 まさる

① 県産農産物のブランド力強化に向けた取組について

県産農産物の生産拡大や品質向上はもちろんのこと、**県産農産物のブランド力を高め生産者の所得向上に繋げることが必要**と考えるが、オール栃木で進められるよう、県が方針を示していく必要があると考えるが、今後の取組について知事に伺う。

【答弁】 福田知事

県産農産物全体でブランド力の強化を図る必要があることから新たに**3つの戦略を構築**する。

1つめの戦略は、共通したコンセプトに基づくブランドイメージをつくるため、**栃木県産を象徴する統一ロゴマークを作成**する。

2つめの戦略は、主産県と連携したイチゴの全国消費拡大運動の展開と併せて、東南アジア等でのPRに取り組む。また、**「とちぎの星」の県外向けの販路拡大などを進める。**

3つめの戦略は、新たな県産農産物の販売促進に関し、**オール栃木体制を構築できるような新たな会議体を設置し、ブランド力向上や、生産・流通体制の強化を図る。**

全ての**市町や関係団体と共同で、県産農産物に特化したPRイベントをオール栃木で開催**することを提案しました。

再質問

② 子育て環境の充実に向けた取組について

現在策定中の「栃木県こどもまんなか推進プラン」に基づき、本県が目指すべき子育て支援環境の充実に向け、どのように取り組んでいくのか伺う。

【答弁】 保健福祉部長

子育て環境の充実に向けて、様々な機会を捉えて子供等の意見表明の機会の創出や、その声を反映させる取組を進めてきた。今後も市町と協議を重ね、地域の実情などを考慮した子育て施策を進めていく。

共働き世帯が増加する中、それを前提とした子育て環境の充実が必要。**本年4月からは介護・育児休業法が改正され、更に柔軟な働き方が求められるようになる**が、働きやすい環境整備や、改正に対応する企業への支援も含めた取組が必要と考えるが所見を伺う。

【答弁】 産業労働観光部長

これまでの取組に加え、今後は各企業が個別で抱える課題解決などを進めるため、**働き方改革コンサルタントを直接派遣しての伴走支援等を通して、子育てをしながら安心して働ける社会の実現を進めていく。**

産後速やかな職場復帰に向けた0、1、2歳の預け先の確保や、学童保育の更なる充実について要望。

要望



③ 民間と連携した県庁舎の利活用について

県庁舎の空きスペースを活用した様々な取組が全国的に進む中、群馬県における先進的な取組を参考に、**栃木県庁舎の有効活用についても民間と連携し進めることを提案**。また再質問において、県庁舎に限らず公共スペースの活用を更に柔軟に進めることを提案させて頂きました。

④ 児童生徒の学力向上に向けた取組について

CBT(コンピューターを利用して実施するテスト)を活用した学力定着プログラムについて質問し、**教育長からは結果を即座に確認できるCBTを活用し、一人一人にきめ細かな指導を進めるとの答弁**がありました。併せて、**社会問題化している教員不足においても、実状を国に伝えて頂くよう要望**。

⑤ 産業人材の確保・育成について

産業人材の確保・育成の取組は、少子化対策と並ぶ最重要課題と考えるが、外国人材の積極的な活用も含め、産業人材の確保・育成にどのように取組むのか産業労働観光部長の所見を伺う。

【答弁】 産業労働観光部長

今年度からは**県内企業に就職した方の奨学金返還の支援対象を、公務員以外の全業種に拡大する等の取組を進めてきた**。

来年度は外国人材受け入れセンターを新設し、外国人材の積極的な活用も含めて、産業人材の確保・育成に取組んでいく。

再質問

外国人材の活用への取組や、次期国際戦略の策定について再質問し、産業労働部長からは、**民間の方々から幅広く意見を聞く場をつくり、施策に反映していく**旨の答弁がありました。

要望

これから社会にでる子供たちに、**働くことの選択肢を広げていく取組も必要**であるので、**自分の発想や価値観を形にする楽しみを知ってもらう取組を進めて頂くよう要望**。

再質問

生活文化スポーツ部長

今後更に外国人材の受入れが増えていく中、多文化共生の理解促進を進める上で、**現時点での地域課題を抽出して、整理していく必要がある**と考えるが所見を伺う。

【答弁】 生活文化スポーツ部長

多文化共生の理解促進に向けては、来年度予算において、**地域コミュニティにおける課題やニーズについて把握するための調査**を行い、報告書を取りまとめていく。

要望

多文化共生を進める上では、日本人の文化や風習、日本人が大切にしてきた価値観等を理解してもらうことが前提であると考えるので、その点も踏まえながらニーズ調査を進めていくことを要望。

⑥ 地域と連携した井頭公園の魅力向上について

現在、井頭公園周辺の魅力向上に向けて、県と市が連携して取組んでいるが、今後の取組を伺う。

【答弁】 県土整備部長

新年度より**公園駐車場の一部を多目的広場に改築し、隣接する井頭温泉等の施設との一体性、回遊性を高めるとともに、大型遊具を設置**して、新たな魅力向上に取り組んでいく。

⑦ 県民の体感治安の向上について

自主防犯組織が減少する中、県民一人ひとりの防犯意識の向上を図るとともに、迅速で効率的な捜査に繋がるような取組を進める必要があると考えるが、今後どのような取組を進めるのか警察本部長に伺う。

【答弁】 警察本部長

新たな**情報発信のツールとしてスマートフォン用防犯アプリ「とちぎポリス」の運用を開始**した。各種犯罪や、こども、女性に対する声かけ情報等の地図表示、また位置情報と連動した防犯パトロール機能を備えている。その他デジタルツールを積極的に導入し、県民の体感治安の向上につとめていく。

再質問

生活文化スポーツ部長

自主防犯組織が減少する中、県では**「ながら見守り」の取組を推奨**しているが、今回導入された**「とちぎポリス」との連携**を進めることで、**見守り活動の不足エリアのカバーに繋がる**と考えるが、今後の連携について伺う。

【答弁】 生活文化スポーツ部長

位置情報と連動した防犯パトロール機能が備えられていることから、**見守り活動が希薄なエリアについては大変有効に活用できる**ので、周知も含めて連携をすすめていきたい。

再質問

生活文化スポーツ部長

現在20の企業が「ながら見守りサポート企業」となっているが、共働き世帯が増加し、地域コミュニティが希薄化する中、多くの企業にサポート企業として参加してもらうことは、時代にあった防犯への取組と考えるが所見を伺う。

【答弁】 生活文化スポーツ部長

サポート企業の増加に向けては、これまでよりも**幅広い業種の方々**をお願いをし、**増加に向けた取組を進めていく**。

要望

見守りについては、子供に対してはもちろんのこと、高齢化社会が進む中、**これから5人に1人が認知症患者になると推測されているので、社会全体で見守りに対する意識を向上させていく取組強化を要望**。

▼ 一般質問の詳細はこちら ▼

栃木県議会 議会中継

第405回通常会議
[02月18日～03月24日]
2月26日 本会議(質疑・質問)



検索はこちらから

● 議会活動の情報発信について

栃木県議会では、議会活動の情報発信として**X(栃木県議会【公式】)**にて様々な情報を発信しています。また、昨年度より、井出文恵(あやえ)さん、永井壘さんに県議会ナビゲーターに就任頂き、開かれた議会を目指し、日々の情報発信に取り組んでいます。

栃木県議会
ナビゲーター

井出 文恵さん



永井 壘さん

質問した事項について
県の取組を紹介します

一般質問 ⑦ 県民の体感治安の向上について

防犯アプリ「とちぎポリス」とは

犯罪や交通事故等の各種情報をリアルタイムに提供する機能や、特殊詐欺に対する知識を学ぶ機能が備わるなど、**利用者一人一人が防犯意識を高めていくことに役立つ栃木県警察の防犯アプリ**です。現地送信機能や、防犯ブザー等もついていますので、是非ともご活用ください。

防犯アプリとちぎポリス
ダウンロードはこちら



「ながら見守り」とは

『散歩』をしながら、『農作業』をしながら等、**日常生活の中で「防犯の意識」を持ちながら子供たちを見守る取組**です。県では個人で取り組む「見守りパートナー」や、「サポート企業」を増やす取組を進めています。

今回の一般質問では「とちぎポリス」と「ながら見守り」を相互に活用しながら、地域の防犯力向上に生かす取組をすすめることや、「サポート企業」を増やしていく取組を強化すべき、といった趣旨の質問をさせて頂きました。

予算特別委員会

① スポーツを活用した地域活性化への取組

とちぎプロスポーツハブとは

栃木県に拠点を置くスポーツチームと、**地域や企業を繋げることを目的に「とちぎプロスポーツハブ」が開始**されました。**新たな地域の取組や、コラボ商品の開発等との連携強化を目指す取組**です。また、県では栃木県スポーツコミッション(URL)内において合宿や大会の誘致活動を進めていますが、ホームページ等でより詳細な情報発信を強化し、スポーツを活用した地域活性化の取組を進めています。

とちぎプロスポーツハブ
専用相談フォームはこちら

